



復刊 92号

紅葉と石仏

妙たえの光ひかり

大玄閣前の石仏に気が付かれたらどうか。春は新緑、秋は紅く色づくモミジの葉の下で微笑む石仏は、心ませるものがある。

縁あって20年程前に韓国からやってきた。韓国仏教美術の宝庫といわれる慶州の南山なむざんで、かなり古い時期に出土した新羅時代しんらの石仏を複製したものだ。出土した村では『赤ちゃん仏』として、長く親しまれてきたという。

現物は韓国の国立慶州博物館が保存し、慎重を期して展示を目的に二体の複製を制作した。そのうちの一体が、ここ妙光寺にある。作者は韓国の石彫の大家で、大韓民国芸術院会員の田雷鎮氏だ。田氏の作品は母子像など微笑ましいものが多い。ソウル市内の数多くの国立施設の入り口や壁面で、天女の像などを見ることが出来る。



行事案内

お彼岸中日法要

9月23日(水)祝

午前10時30分 安穩廟法要
11時 秋季彼岸会
中日法要(本堂)
12時 おとき(どなたも当日受付)
午後1時 住職法話
*どなたでも、ゆっくりお参りいただけます。



ジョー・オダネル「ナガサキ写真展」

10月31日(土)～11月8日(日)

午前9時30分～午後4時30分 **入場無料**
米軍カメラマン、ジョー・オダネル氏が撮った原爆投下直後の日本。軍規違反で半世紀近くトラックに封印されてきた写真50点が、妙光寺へやって来ます。
*詳細は別紙チラシをご覧ください。

写真展記念「辻幹雄11弦ギターコンサート」

11月1日(日) 午後2時開演

予約・前売りチケット 2,000円(当日2,300円)
日本初の11弦ギター奏者として活躍する辻幹雄さん。国際的評価も高く、アメリカ、ヨーロッパでも活動を展開しています。チケットのご予約は妙光寺まで。

お会式と第14回法号授与式

11月8日(日)

午前9時 戒名授与者研修
11時 お会式、法号授与式
12時 おとき
午後1時 写真展に寄せて～
「ジョー・オダネルとの出会い」山崎 真さん
*詳細は別紙案内をご覧ください。
生前戒名のご案内は6ページです。



あ と が き

今号の『妙の光』は、少し小さい形で発行いたしました。初夏から夏にかけて、お寺はとても忙しい毎日でした。とりわけお盆から「送り盆」までは、^ゝ駆け抜ける、という言葉がふさわしい日々でした。そのため、今号はインタビュー等はお休みにさせていただきます。次号から、いつもの形に戻ります。よろしくお願ひいたします。
(新倉理恵子)

七五三詣り

11月15日(日)

午前10時30分 受付
11時 ご祈禱
お子さん、お孫さんの健やかな成長を願い、七五三のご祈禱をいたします。
*詳細は別紙案内をご覧ください。



秋の1日研修

11月21日(土)

午前9時～午後3時半
会費 4,000円(昼食付)
申込み11月10日までに
電話、FAX
ホームページ連絡窓口から



お経を読んでみたい、少しは意味を知りたいという方。数珠の持ち方からお参りの作法など、分かりやすくお教えします。堅苦しいことは一切ありませんのでお気軽にご参加下さい。初心者と複数回者をグループ分けする予定です。

月例信行会

10月4日(日)、11月1日(日)、12月6日(日)

毎月第1日曜日 朝7時～9時
会費 1,000円(各自さい銭箱へお願いします)
*予約不要。当日お寺へ直接お越しください。お参り、法話、作務、朝粥の朝食とコーヒータイムがあります。

月例ボランティア

毎月15日

午前9時～11時 午後1時～3時
清掃作業等。
主に本堂清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越しください。昼食はご持参で。

お寺でヨガ **予約制**

初心者向けのヨガ体験。
9/24(木) 11/14(土) ※10月はお休みです。
11/19(木) 12/12(土) 12/17(木)
■時間：(木)=14:00～15:15 (土)=19:00～20:15
■定員：各15名 ■参加費：1回700円
■持ち物：ヨガマット、もしくはバスタオル
■講師：ノリコさん
木曜と土曜では時間が違います。ご注意ください。



トランクの中の日本 ジョー・オダネル『ナガサキ写真展』

小川英爾

終戦から70年目の今年、戦争に繋がりがけない『安全保障法案』が、各種世論調査でも納得できないとする声の多い中で、成立させられようとしています。アメリカでは、広島・長崎への原爆投下が戦争終結のために必要だったという声が未だにあるそうです。勝つためには手段を選ばないのが戦争なのだ、と痛感します。

今秋縁あって、原爆投下直後の長崎を米軍カメラマン、ジョー・オダネル氏が撮影した写真の写真展を実行委員会の主催で行うことになりました。70年前の戦争を再認識する機会として、是非お出かけください。

新潟に原爆？

新潟市も原爆投下の候補地の一つでした。広島の次は小倉の予定でしたが、悪天候で長崎に変更され、そして次の予定地が新潟だったそうです。当時新潟に新型爆弾投下の噂が広まり、市民が避難しました。この事実をもとに、30年程前ですがNHK新潟放送局がラジオドラマを作り、お盆に放送したので私も僧侶



放送局がラジオドラマを作り、お盆に放送したので私も僧侶

役で出演し、その時初めて新潟が候補地だったことを知りました。

被爆直後の長崎を記録

昭和20年8月9日、長崎の町は一瞬にして消え去りました。米軍カメラマン、ジョー・オダネル氏は、軍の命令で直後の長崎に入り凄惨な様に圧倒されます。そして許可なく日本人を撮ってはならないという軍規に反して、密かに私物のカメラで撮影をしました。軍規違反の写真は、その後半世紀近く彼のトランクに封印されたままでした。しかし「原爆がどれほどの苦しみと痛み、そして荒廃をもたらしたかを自分自身が直視するだけでなく、世界に向けて訴えて行かなければならないと気付いて」氏は公開を決定します。その中の一枚が「焼き場に立つ少年」の写真でした。以来写真は、日本各地はもとより世界各国で、展示されてきました。

ご縁による写真展

50枚余りのパネルになった写真を日本で公開する権利を持つのが、盛岡市の山崎真さんです。アメリカで今は亡きジョー・オダネル氏に出会い、直接託されたのです。妙光寺で度々陶芸展を開いている陶芸家

の中野亘さんは、山崎さんと親しくされています。中野さんからこの写真展を提案され、早速山崎さんにお電話し、快諾頂いたのです。写真展期間中には、山崎さんのお話を聞く会も予定しています。

また期間中に、世界で活躍する11弦ギター奏者・辻幹雄さんの演奏会も行います。昨秋、私が新潟の美術館「砂丘館」で講演を行った際、会場にギターの曲が流れていました。一緒にいた中野さんが「もしかしてこれは辻さんの演奏？ 実は写真展の時、辻さんの演奏会をしたいと考えていますが…」と言った。「砂丘館」館長の大倉宏さんが「私も妙光寺で辻さんのコンサートを、とっていた」と言われ、偶然にも共に親しい方だと分かったのです。

藤山一郎が歌った『長崎の鐘』を古い方ならご存知と思います。これは自らも被爆しながら医療活動に従事した、長崎医大の永井隆医学博士の同名の本が基でした。実は、永井博士には『長崎の鐘』と題した長編の詩があります。辻さんは、この詩に曲をつけたのです。今回の写真展で、この曲を皆さんに聴いていただきたいと考えています。秋の妙光寺で、平和の尊さに思いをいたす時間を持って下さい。

いつも夫婦でのお参り

真島藤市さんは旧西川町押付に生まれ、農家のひとり息子として幼いころから両親の農作業を見習い育った。19歳の時、同町升潟の農家出身の慶子さんと結婚。2人は農作業に精を出し、3人の子供も授かった。共に生家は妙光寺の檀徒で、お寺の行事には夫婦でお参りしている。結婚当時は車もなく、片道10kmの道のりを、いつも歩いて1日ばかりだった。

ある年の8月1日盆のお参りの時、墓参りの後、親戚と海水浴に行った子ども達のはぐれていなくなり、法要の際中に大騒ぎになった。幸い知り合いに保護されて大事に至らなかったが、あのときの心配は今でも忘れられないと言う。

自宅の朝の仏壇参りも夫婦で怠らない。身延山久遠寺参拝旅行に幾度も参加し、七面山にも登詣した。若いころは良かったが、年を取ってからの七面山登詣では膝を痛め、他の参拝者の肩を借りるなど体力の衰えを思い知らされたと言った。

藤市さんは曾根地区の世話人を30年余り務め、今年の改選で定年となり顧問を委嘱された。妻の慶子さんは「これからは元気なうちはお寺の勝手働きを続けたい」とにこやかに語る。当然顔見知りも多く、お寺で「押付(地名)、と言えば真島さん夫婦のこととして親しまれている。

仕事一筋に

現在も農作業は現役だ。結婚当時は現在の様に農業機械が普及しておらず、何をするにも全てが手作業で本当に苦労した。



藤市さんは農作業の合間、頼まれて近くの酒造会社に10年間勤めたことがある。酒米の運搬から精米、酒造りの過程の全てに携わった。周りの職人が苦手な仕事も積極的に引き受け、身を粉にして働いた。その努力が認められ、ある年の初仕込みの祈願祭で、従業員は入ることの許されない畳張りの仏間に通されたことがある。何より嬉しい思い出と語る律義な人柄の藤市さんだ。25年前には重い椎間板ヘルニアを患い、大事な農作業ができなくなった。病院を何か所か変えてもはかばかしくなく、ご前様に整骨院を紹介されて序々に回復できたと言う。

慶子さんも金属加工会社にパート勤務の頃、工場で機械に挟まれ指3本を切断する大怪我を負った。救急車で大学病院に搬送され緊急手術は12時間に及んだ。幸運にも元に戻り、1カ月の入院で全ての指が動く様になった。

今の楽しみ

「人生いろいろあったが、今も元気で農作業を続けられるのも、お寺があって、仏様、先祖があつてこそ」と日々感謝している。これからは週2回の野菜直売所への出荷や、作業小屋での仕事、そして老人会の活動を通して、近所の人たちと楽しみながら老後を過ごしたい」と語るお二人だった。(鎌田記)



佛縁に感謝して

新潟市西蒲区押付

真島藤市さん(76歳)
慶子さん(76歳)



「妙光寺めぐり」ただ今、仏像解説中。



「花押」(サイン)を求められるお坊さん!



子どもからお年寄りまで、みんなが楽しい大道芸コーナー。



東北大学宗教学科の学生、大学院生6名と引率教師が、2泊3日で送り盆に研修参加しました。これに先立ち、6月に住職が同大学で講演しました。



山門の川灯籠を囲み、しめやかに執り行われた「送り盆法要」。お経と山口幹文さん(「鼓童」名誉団員)の篠笛が境内に響きました。



「住職とトーク」檀徒代表の皆さんが「私にとっての妙光寺」を語りました。司会は人気アナウンサーの遠藤麻理さんです。



美味しい食事と楽しい語り「夜の交流会」

寺のうごき夏



山まで続く350の灯籠に、亡き人への想いが...

万灯のあかり ～妙光寺の送り盆～

(第26回フェスティバル安穩)
8月22日(土)

堂内の仏像から住職の書齋までを解説付きで回る「妙光寺めぐり」や、気楽にお坊さんと接してもらえるようにと「ポーズカフェ」に「お坊さん花押ラリー」も登場。仏像木版刷りや写仏、仏事の作法などの「体験コーナー」等も。新潟で活躍中の若きシェフ3人が腕を振るった夜の交流会「お寺でイタリアン!」は200名に。新たなご縁がたくさん生まれました。



開門前、スタッフ約100人の打ち合わせ。



500人を超える人々で賑わった境内。



昔話に花が咲く「懐かしの妙光寺写真展」

お盆 施餓鬼法要 8月1日(土)



土曜日のせいか、早朝からお墓参りのご家族連れで賑わい、駐車場に入りきれないほどでした。



ボランティア

7月と8月の「ボランティア」は「万灯のあかり」の準備作業。川面を照らす特大の蓮飾りと、川につるす灯籠をみんなで手作りしました。



岩屋七面様祭礼 8月19日(水)

法華經の守護神、七面大明神の祭礼。岩屋での法要はとても幽玄です。



「気をつけて！ 行ってらっしゃい！」

小川綾が退職いたします

事務室の職員小川綾（私たちの娘ですが）は、このたび10月に退職することになりました。おかげさまで、寺から毎月給料をいただき、両親に食べさせてもらっていたので、十分ではありませんが、貯金もたまりました。

大学を卒業してすぐに寺に就職したので、7年近くお世話になったこととなります。綾が就職活動に励んでいたころ、ますます妙光寺は忙しくなって人手が足りなくなり、おまけに私の体調が悪くなって思うように働けなくなったこともあって、東京から戻してもらいました。

綾はまだまだ不十分ではあったと思いますが、ずいぶん仕事も覚えたり、コンピューターにも強かったもので、寺務の効率も上がったかもしれません。なにより24時間営業のお寺で、安心して留守を任せられました。綾が退職すると、これからは少し大変になることでしょう。

妙光寺の宝！

私も今は体調も良いので、またこれまで以上に頑張っ、今度は長女良恵を育てながらささえなくてはなりません。職員が減ったことをご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしく願います。

いままでもたくさんのご縁をいただいて、そしてお

別れして…。物事は同じようにここに留まるものではないのに、わかってはいても少し淋しいものです。

一方で、7月の灯籠づくりボランティアにはのべ50人ほどの方々が集まって作業をしてくださり、「送り盆」のスタッフは冬から月一度は会議のためにご足労いただきました。寺の年中行事には受付や台所働きなどたくさんの方々に手伝っていただき、なにより総代、各地区の世話人の方々の活躍が寺を支えてくださっています。これが妙光寺の宝！なので、何とかなるでしょう。前向きに進んでいかなければ！と自分をふるい立たせている今日この頃です。

人の人生は意外と短いもの

さて綾はどうするのかというと、めでたく寿退社…ではなくて、カナダへ行くのだそうです。大学生のころから海外で生活するのが夢だったとか。私は若い時によく考えもしないで結婚してしまい、やりたいこともそれまでやってきた好きなこともすべてリセットしてしまったので、若い時にやりたいことを存分にやれる世代の娘を応援しようと思っています。自分の人生なのだし、意外と人の一生は短いものだと感じるからです。

幸せなことに、人生について語れる余裕がまだ私には残っています。働く元気もあるし、欲しいものはもうあまりないけれど、ごはんは美味しい。

綾がお世話になった皆さんに、心からお礼を申し上げます。夏のお疲れがでませんように！

『生前戒名』授与 11月8日㊤

戒名は仏弟子の証として、生前につけるのが本来の姿です。毎年秋の『お会式』に合わせて授与式を行います。

お名前と戒名を金糸で刺繍した略袈裟と数珠の記念品があります。費用は3万円です。ご希望の方には詳しい説明書と申込書をお届けします。お問合せ締め切り10月8日 ※同封の返信用ハガキをお使いください。



『お会式』 11月8日㊤

日蓮聖人のご命日の法要を『お会式』といたします。例年は10月ですが、今年は11月8日㊤に行います。

別紙ご案内の『シヨウオタル写真展』（10月31日～11月8日）と「辻幹雄11弦ギターコンサート」（1日）、写真を受け継いだ「山崎真さんのお話を聞く会」（8日）、を関連開催します。響きのよい本堂でのギター演奏とともに、平和を考えるとひとときです。ぜひご予約ください。



秋の1日研修会 11月21日㊤

お経のこと、作法のこととを気軽に体験する研修会です。お一人でも安心して参加できます。8ページのご案内があります。



『浄土基金』報告

妙光寺が皆さんの心の拠り所となり、この世の浄土であり続けるための『妙光寺浄土化計画』を進めています。その基盤となるのが『妙光寺浄土基金』で、広くご協力を仰いでいます。申込総額は49,182,284円（8月31日現在）となりました。昨年秋季の客殿改修工事に支出後、このたび三重塔の土台修復に1,512,000円、行事の際お斎を調理する台所の冷房設置に331,290円を支出することとなりました。ご報告申し上げます。

良恵の修行日記

第3回 お寺での修行が始まりました



前回の『妙の光』に「行ってきます！」と書いておいて、もう「戻りました！」とご挨拶をします。僧侶の資格は得ましたが、修行が終わったわけではなく、これからが本番です。まだまだ未熟な所があると思いますが、よろしくお願い致します。

ちなみに今は、お盆の棚経真つ最中です。大勢での修行中や、法要の時と違い、一人で読経すると、息継ぎのタイミングが難しく…時々妙な間が開いたりします。（気合を入れて声を張った時などは特に）任職や他の上人方のように、スムーズに読めるようになりたい！と思いつつ、頑張っています。

